



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月7日

上場取引所 東

上場会社名 (株)東京放送ホールディングス
コード番号 9401 URL <http://www.tbsholdings.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 俊爾
問合せ先責任者 (役職名) 経理局経理部長 (氏名) 伊藤 博信

TEL 03-3746-1111

四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	265,366	2.2	12,966	29.5	14,506	18.9	3,149	△73.8
24年3月期第3四半期	259,592	△0.1	10,010	36.6	12,203	30.6	12,019	570.0

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 4,648百万円 (△66.5%) 24年3月期第3四半期 13,867百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	20.69	—
24年3月期第3四半期	76.28	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	527,334		324,575			58.7
24年3月期	555,159		322,597			55.5

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 309,284百万円 24年3月期 308,358百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
25年3月期	—	7.00	—		
25年3月期(予想)				7.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	351,700	1.5	15,400	26.6	16,500	15.3	7,000	△40.0	45.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 (3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	190,434,968 株	24年3月期	190,434,968 株
25年3月期3Q	38,226,458 株	24年3月期	38,225,599 株
25年3月期3Q	152,209,054 株	24年3月期3Q	157,566,881 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短針は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) セグメント情報等	9
(6) 重要な後発事象	10
4. 補足情報	10
㈱TBSテレビ第3四半期事業収入の内訳	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

日本銀行の「金融経済月報」によりますと、日本経済は、先行き、当面横ばい圏内となったあと、国内需要が各種経済対策の効果もあって底堅く推移し、海外経済が減速した状態から次第に脱していくにつれて、緩やかな回復経路に復していくと思われまふ。しかしながら、足元の景気は、輸出や鉱工業生産が減少するほか、設備投資も伸び悩むなど、全体として弱めに推移しています。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は2,653億6千6百万円（前年同期比2.2%増）、営業利益129億6千6百万円（同29.5%増）、経常利益145億6百万円（同18.9%増）、四半期純利益は、投資有価証券評価損の増加と前期に計上した関係会社株式売却益の反動もあり、31億4千9百万円（同73.8%減）となりました。

<放送事業セグメント>

テレビの放送事業収入のうち、株式会社TBSテレビの当第3四半期連結累計期間のタイム収入は668億1千4百万円、前年同期比3.8%増となりました。レギュラー番組が前年実績を確保したことに加え、「2012ロンドンオリンピックバレーボール世界最終予選」、サッカー「UEFA EURO2012」、「ロンドンオリンピック2012」といったスポーツ大型単発番組がタイムセールスを押し上げました。

一方、スポット収入は628億9千9百万円、前年同期比1.6%増でした。スポット収入は東日本大震災の反動により第1四半期は大きく伸びましたが、夏以降伸び悩みました。また、当第3四半期連結累計期間におけるTBSテレビの在京5局間のスポット売上シェアは19.6%（推計 前年同期比0.2ポイント減）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるTBSテレビの視聴率は、全日帯6.5%、ゴールデン帯9.2%、プライム帯9.3%となりました（ビデオリサーチ調べ）。個別の番組では「ぴったんこカン・カン」「サンデーモーニング」が安定して高視聴率を毎週獲得しております。また、ドラマでは日曜21時から放送された「MONSTERS」が最終回で13.5%を獲得して底堅い評価を得ました。

特筆すべき番組としては、株式会社WOWOWと共同制作したドラマ「ダブルフェイス」（出演：西島秀俊/香川照之）があります。10月15日に放送し、世帯視聴率13.4%を記録しました。スポーツ中継では、WBCに向けての強化試合「日本代表 VS キューバ代表」を11月16日に放送し15.2%の視聴率を記録、また、12月4日に放送したボクシングWBA世界バンタム級王座統一戦「亀田興毅×ウーゴ・ルイス」は20.5%を記録し、2012年度TBSテレビ全番組を通じて最高視聴率となりました。

前期7月に連結子会社となった株式会社BS-TBSは、当第3四半期連結累計期間で売上高102億7千3百万円（前年同期比24.0%増）、営業利益18億6千4百万円（同62.5%増）となりました。タイム収入、スポット収入とも好調に推移しました。また、秋編成でスタートした「それがしりたい〜ニッポンおもしろいネ〜」「徳さんのお遍路さん 四国八十八カ所心の旅」などの新番組も好評を博しています。

ラジオ部門では、株式会社TBSラジオ&コミュニケーションズが12月の聴取率調査において69期連続トップを記録しました。2位局とも0.5ポイントの差をつけ、11年半にわたって首都圏ラジオトップの座を守っております。個別番組では、各ワイド番組がそろって数字をのばし、ワイド番組平均では「大沢悠里のゆうゆうワイド」「永六輔その新世界」「安住紳一郎の日曜天国」が全ラジオ番組中でトップを分けあいました。営業面では、当第3四半期連結累計期間のタイム収入42億6千8百万円（前年同期比5.2%減）、スポット収入17億7千1百万円（同2.5%減）となりました。ラジオをとりまく状況は依然厳しさが続いておりますが、これまで以上にコストコントロールに気を配り、収益の確保を目指してまいります。

放送事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,592億5千4百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は31億3千万円（同230.7%増）となりました。

<映像・文化事業セグメント>

映像事業は、11月公開の映画「のぼうの城」（出演：野村萬斎ほか）が動員233万人、興収28億円を超える大ヒットとなりました。また、10月に発売された映画「SPEC〜天〜」のDVD/BDがセル累計で7万本を越える驚異的なセールスを記録しました。11月発売のドラマ「ATARU」のDVD/BDは累計で1万6千セットとなり、これもまた大ヒットとなりました。

働事・興行関連では、人間国宝・坂東玉三郎が赤坂ACTシアターにて「ふるあめりかに袖はぬらさじ」（作：有吉佐和子）を檀れいと共演で上演し、好評でした。また、同じく赤坂ACTシアターにて11月から上演した「ぼくに炎の戦車を」（出演：草薙剛ほか）も連日満員の盛況でした。また、10月3日から国立新美術館で開催された「リヒテンシュタイン 華麗なる侯爵家の秘宝」には25万人を超える人が来場しました。

メディアビジネス関連では、「TBSチャンネル2」が10月1日に開局し、まずは110度CS放送（スカパー）で放送を開始しました。主にTBSの名作ドラマを中心に放送しております。オンデマンド事業は、12月時点で、960タイトル、4991エピソードという国内最大級のサービスを提供しております。デジタル事業では、衆議院総選挙の際、報道局との連携によりリアルタイムでの選挙情報をYahoo!JapanとGoogleに提供しました。これはテレビ局としては

初めての試みでした。

この他、スタイリングライフグループは、中核である小売事業の「プラザスタイル カンパニー」が増益を確保したことをはじめ、通信販売の「ライトアップショッピングクラブ」もシニア層をターゲットとした衣料品が堅調に推移し、グループ全体で増収増益となりました。

映像・文化事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は944億3千8百万円（前年同期比2.4%減）、営業利益43億7千5百万円（同7.3%増）となりました。

<不動産事業セグメント>

開業5年目に入った赤坂サカスは、Bizタワーのオフィス稼働率がほぼ100%となるなど、堅調に推移しました。2008年3月のオープン以来、赤坂サカス地区への累計来場者数は3,400万人を超えております。今後もTBSグループや番組をより身近に感じていただくための体験イベントの開催などに加えて、赤坂の街と連動した地域密着イベントにも力を注ぎ、放送文化の発信地としての地位を不動のものとするを旨としてまいります。

不動産事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は116億7千2百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益54億6千6百万円（同9.6%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は5,273億3千4百万円で、前連結会計年度末に比べ278億2千4百万円の減少となりました。借入金の返済等により、現金預金、有価証券が合わせて185億1千8百万円減少したことに加え、有形固定資産、無形固定資産が減価償却等により60億2千7百万円減少したこと、保有する株式の含み益の減少等により投資有価証券が69億6千6百万円減少したこと等によります。

負債合計は2,027億5千9百万円で、前連結会計年度末に比べ298億2百万円の減少となりました。短期、長期合わせた借入金が借入れ及び返済により純額で209億5千万円減少したこと、未払金が29億5千万円減少したこと、保有する株式の時価の下落に伴い繰延税金負債が18億1千6百万円減少したこと等によります。

純資産合計は3,245億7千5百万円で、前連結会計年度末に比べ19億7千7百万円の増加となりました。四半期純利益の計上等により利益剰余金が5億5千4百万円増加したこと等によります。

この結果、自己資本比率は58.7%、1株当たりの純資産は2,031円98銭となっております。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年3月期の通期業績予想につきましては、グループ全体ではほぼ想定通りに推移しており、売上高、営業利益、経常利益につきましては、前回予想と同額を見込んでおります。また、当期純利益につきましては、株価の回復に伴い投資有価証券評価損が減少する見込みとなったことなどから、平成24年11月1日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

なお、四半期会計期間末における投資有価証券の減損処理につきましては、洗替え方式を採用しております。また、配当予想につきましては、平成24年5月11日に公表した予想に変更はございません。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	百万円	百万円	百万円	円	銭
平成24年11月1日発表(A)	351,700	15,400	16,500	1,000	6	57
平成25年2月7日発表(B)	351,700	15,400	16,500	7,000	45	99
増減額(B-A)	—	—	—	6,000	—	—
増減率	—	—	—	600.0%	—	—
前期実績	346,538	12,162	14,313	11,671	74	71

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益は、それぞれ1億3千7百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	79,001	16,483
受取手形及び売掛金	36,767	37,937
有価証券	—	43,998
商品及び製品	6,726	8,170
番組及び仕掛品	6,142	8,523
原材料及び貯蔵品	627	680
前払費用	8,410	7,121
繰延税金資産	2,696	1,505
その他	6,112	7,324
貸倒引当金	△116	△122
流動資産合計	146,368	131,624
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	190,731	191,718
減価償却累計額	△79,621	△83,898
建物及び構築物（純額）	111,109	107,819
機械装置及び運搬具	83,281	84,093
減価償却累計額	△74,906	△75,677
機械装置及び運搬具（純額）	8,375	8,416
工具、器具及び備品	22,588	23,966
減価償却累計額	△20,262	△21,613
工具、器具及び備品（純額）	2,326	2,353
土地	84,553	84,556
リース資産	6,725	6,732
減価償却累計額	△3,513	△3,740
リース資産（純額）	3,211	2,991
建設仮勘定	4,467	4,015
有形固定資産合計	214,044	210,152
無形固定資産		
ソフトウェア	5,024	4,464
のれん	23,966	22,761
リース資産	458	390
その他	2,048	1,744
無形固定資産合計	31,497	29,361
投資その他の資産		
投資有価証券	149,363	142,397
長期貸付金	414	296
繰延税金資産	1,472	1,460
長期前払費用	1,046	975
その他	11,767	11,768
貸倒引当金	△815	△702
投資その他の資産合計	163,248	156,196
固定資産合計	408,790	395,710
資産合計	555,159	527,334

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	34,688	33,446
短期借入金	20,000	—
1年内返済予定の長期借入金	11,750	18,000
未払金	11,782	8,831
未払法人税等	3,123	1,513
未払消費税等	827	896
未払費用	5,070	3,684
役員賞与引当金	184	131
その他の引当金	1,058	686
その他	6,672	7,286
流動負債合計	95,156	74,476
固定負債		
社債	50,000	50,000
長期借入金	47,000	39,800
退職給付引当金	12,978	13,324
リース債務	2,235	1,748
繰延税金負債	10,121	8,304
その他	15,069	15,104
固定負債合計	137,405	128,282
負債合計	232,561	202,759
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,986	54,986
資本剰余金	60,254	60,254
利益剰余金	222,303	222,858
自己株式	△48,972	△48,973
株主資本合計	288,572	289,126
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,329	20,274
繰延ヘッジ損益	△357	45
為替換算調整勘定	△186	△162
その他の包括利益累計額合計	19,785	20,157
少数株主持分	14,238	15,291
純資産合計	322,597	324,575
負債純資産合計	555,159	527,334

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	259,592	265,366
売上原価	183,120	185,297
売上総利益	76,471	80,069
販売費及び一般管理費	66,461	67,103
営業利益	10,010	12,966
営業外収益		
受取利息	52	54
受取配当金	3,167	2,555
持分法による投資利益	83	26
その他	582	549
営業外収益合計	3,886	3,186
営業外費用		
支払利息	1,073	996
固定資産除却損	169	71
その他	450	578
営業外費用合計	1,693	1,646
経常利益	12,203	14,506
特別利益		
負ののれん発生益	—	126
投資有価証券売却益	4	1
関係会社株式売却益	5,959	—
段階取得に係る差益	210	—
特別利益合計	6,174	127
特別損失		
投資有価証券評価損	1,609	5,626
減損損失	102	534
事務所移転費用	—	366
退職給付制度改定損	20	67
早期割増退職金	333	—
ゴルフ会員権評価損	241	—
固定資産除却損	149	—
特別損失合計	2,457	6,594
税金等調整前四半期純利益	15,920	8,039
法人税、住民税及び事業税	2,523	2,442
法人税等調整額	212	1,283
法人税等合計	2,735	3,725
少数株主損益調整前四半期純利益	13,184	4,313
少数株主利益	1,165	1,163
四半期純利益	12,019	3,149

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	13,184	4,313
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	503	△54
繰延ヘッジ損益	214	369
為替換算調整勘定	△35	20
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	0
その他の包括利益合計	683	335
四半期包括利益	13,867	4,648
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,705	3,521
少数株主に係る四半期包括利益	1,162	1,127

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年4月1日至平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	151,339	96,776	11,476	259,592	—	259,592
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,096	3,283	5,047	9,427	△9,427	—
計	152,436	100,059	16,524	269,020	△9,427	259,592
セグメント利益	946	4,076	4,989	10,012	△1	10,010

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送	映像・文化	不動産	計		
売上高						
外部顧客への売上高	159,254	94,438	11,672	265,366	—	265,366
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,225	3,199	5,012	9,437	△9,437	—
計	160,480	97,638	16,685	274,804	△9,437	265,366
セグメント利益	3,130	4,375	5,466	12,972	△6	12,966

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

- (6) 重要な後発事象
該当事項はありません。

4. 補足情報

(株)TBSテレビ第3四半期事業収入の内訳

(単位：百万円)

科 目	前第3四半期 (23.4.1~23.12.31)	当第3四半期 (24.4.1~24.12.31)	増 減		前事業年度 (23.4.1~24.3.31)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
テレビ	134,671	138,674	4,002	3.0%	180,109
タイム・番組制作	64,339	66,814	2,475	3.8%	85,415
スポット	61,900	62,899	999	1.6%	83,504
その他	8,431	8,959	527	6.3%	11,190
事業	19,791	20,230	439	2.2%	25,586
不動産	2,167	2,168	0	0.0%	2,885
合計	156,630	161,073	4,442	2.8%	208,581